ユニバーサル展開プログラム（案）に対する意見の概要【抜粋版】

1 本資料について

「ユニバーサル展開プログラム（案）」について、「札幌市パブリックコメント手続に関する要綱」に基づき、市民の皆様等からご意見を募集したところ、合計357件の貴重なご意見をいただきました。

本資料は、パブリックコメントで寄せられたご意見が多岐に渡ることから、主な意見を抜粋した概要資料となります。

すべての意見概要及び意見に対する札幌市の考え方については、「ユニバーサル展開プログラム（案）に対する意見の概要と札幌市の考え方について」をご確認願います。

2 意見等の内訳

(1) 意見提出者数・意見数

意見提出者数	135人
意見数	357件

(2) 意見提出者数（年代別）

19歳以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	未回答	合計
2人	3人	19人	43人	31人	20人	12人	2人	3人	135人

(3) 意見提出者数（提出方法別）

提出方法別	ホームページ (入力フォーム)	郵送	FAX	メール	持参	合計
提出者数	123人	3人	1人	7人	1人	135人
構成比	91.1%	2.2%	0.7%	5.2%	0.7%	100.0%

※構成比の算出は四捨五入しているため、合計値とその内訳の累計値とは一致しない場合があります。

(4) 意見提出者数（所在地別（区別））

中央区	北区	東区	白石区	厚別区	豊平区	清田区
4人	1人	3人	4人	5人	1人	1人
南区	西区	手稲区	市内計	市外	不明	合計
8人	4人	1人	32人	21人	82人	135人

3 主な意見

※意見の内容については、原文の趣旨をそのままに要約したものです。また、主な意見ごとに分類の上、同様の意見が複数ある場合には意見数を記載しています。

(1) ユニバーサル展開プログラム（案）全体に関する意見

- ・施策の対象に「民族」、「国籍」等を含めるのは反対。（72件）
- ・ユニバーサル関係施策の推進に反対する。（9件）
- ・多文化共生や民族問題など、対象を限定せずに全ての差別を撤廃すべき。限定は利権につながり、かえってユニバーサルの考えを危うくするものである。
- ・進捗管理に当たり、当事者や外部有識者の意見を聞いていくとあるが、当該「当事者」は一部の属性の方に限らず、広く関係する方からの意見を伺うこととすべき。また、当該外部有識者については、専門性が偏らないよう配慮すべき。

(2) 個別施策（事業）に関する意見

ア 障がい関係

- ・ロードヒーティングと雪の段差の移動については、周囲の人のサポートが欠かせないことをもっと知らせてほしい。冬季に特化した障がいのサポートブックをつくり周知してみてはどうか。冬の困りごとをスポーツなどの楽しみと併せて発信できたらよい。
- ・医療的ケア児レスパイト事業について、医療的ケア児の家族にとって安心できる制度となることを期待している。実施に当たっては、利用者の意見を聞き、必要に応じた調整を行なってほしい。

イ 性別関係

- ・性的マイノリティの方々が抱える生きづらさを解消していくとあるが、本当に当事者の声を聞いているのか。統計などはあるのか。（18件）
- ・LGBTの推進については性犯罪という大きなリスクがあるため、LGBTには触れないでほしい。

ウ 子ども関係

- ・子どもの権利推進事業について、日本で子どもの人権が著しくないがしろにされているという実態はない。また、「意見表明権」によって子どもが権利の主体となることは、子どもを健全に育てるにあたり、障壁となっていると考えられる。（14件）
- ・子どもの居場所づくり支援事業について、子ども食堂の総数を増やすのではなく、子ども食堂を多くしなくても済むような手立てを考え、子育て家庭の生活の向上を目指すべきであると考えられる。（14件）

エ 国籍関係

- ・札幌に住む日本国民と外国籍の方を同列に扱うものであり、外国籍の方への公的支援の実施をうたうもの等になっている。この点は、日本国民としての主権が侵害される事態に至ると危惧している。（38件）
- ・外国籍の方は日本人とは全く異なる歴史・文化を持っている。その習慣や文化について一切語られないままの『共生』は、異文化や異質な価値観のみを強調し、日本人が持つ従来の価値観を委縮させ、やがて否定することにつながるため、事業の推進に当たってはこの点を踏まえる必要がある。（14件）

- ・多文化共生推進事業について、札幌に住み続けたいと思う外国人の割合よりも、住み続けたいと思う日本人の割合を多くする方が持続可能な日本社会を構築できると思う。(12件)
- ・多文化共生推進事業について、日本は世界一安全・安心な国であり、外国籍の方が祖国より暮らしにくいのであれば、祖国に帰ることを促していくべきであると考えます。(13件)

オ 民族関係

- ・アイヌ民族については既に広報目的の施設が多数整備されており、これ以上の取組は不要と考える。
- ・アイヌは先住民ではないため、アイヌに関する正しい知識・歴史を日本人に伝えるべきである。アイヌを使った利権や搾取はやめてほしい。

カ その他

- ・心のバリアフリーの推進には賛成だが、その日の人の心の在りように左右されず、頼り切らない心のバリアフリーの進め方があってもよい。
- ・公共施設等における表示の多言語化を進めるほか、日本語表示にもふりがなをつけてほしい。
- ・ユニバーサル推進事業について、それぞれの違いを理解するためにはコミュニケーションが必要。札幌市がそのような場を設定し、理解を広げてほしい。

(3) その他「(仮称) 共生社会推進条例」に関する意見

- ・「(仮称) 共生社会推進条例」の骨子案について、声の大きいマイノリティの人々のために多数の市民が我慢を強いられることなどは、本来の市政のあり方として間違っていると思う。特定の団体だけを利するのではなく、より多くの市民を対象としたものになるようお願いしたい。(15件)
- ・「(仮称) 共生社会推進条例」の骨子案について、前文の記載が非常にあいまいであり、恣意的な運用が危惧される部分がある。特定の団体の意見のみが強調されているのではと感じられる。(14件)
- ・「(仮称) 共生社会推進条例」について、本条例は社会の混乱と分断を引き起こす等の懸念があり、反対である。(3件)